



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

## 温故知新 ～糖尿病治療の未来は？～

【当法人理事】

杏林大学／近藤医院

近藤 琢磨 [医師]

昨年10月27～29日の日程で、第32回日本糖尿病合併症学会総会が新宿の京王プラザホテルに於いて開催されました。本法人理事であり杏林大学医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科教授の石田均先生が学会長を務められ、本法人会員の方々の多大なるご協力を得て、3000人に迫る参加者を迎え盛況のうちに学会を終えることができました。個人的にも学会運営の一部を経験させていただき、大変有意義でした。

同学会の中で、日本糖尿病眼学会との特別合同企画「Back to the Future」において、「糖尿病治療の変遷と進歩」というタイトルで講演する機会を与えていただきました。これは、(糖尿病網膜症を専門とする)眼科医と糖尿病専門医それぞれの立場からお互いの治療の変遷を振り返り「Future」をいっしょに考えていく、という趣旨で企画されたシンポジウムで、聴衆には多くの眼科の先生も来られていました。

糖尿病治療の歴史の中で、インスリンの発見とその製剤化、さらに製剤の進歩は、21世紀の時代から振り返ってみてもやはり重要な意味を持ちます。インスリン発見以前の主に1型糖尿病患者さん達は、アレチの提唱した飢餓療法(端的に言えば、糖質を中心に極端に食餌を制限し血糖値の上昇を抑える方法)により、寿命を数年延長できる一方で、やせ衰え死を待つのみでした。トロント大学マクラウド教授のもとで、臍摘出犬マジョリーによる臍臓抽出物の投与実験をきっかけに、1921年バンティングとその助手のベストはインスリンを発見します。その後、牛から抽出する方法に改良され、翌1922年にはILETIN(アイレチン)として、インスリンは製剤化されます。それまで治療方法のなかった糖尿病に苦しむ世界中の人たちにとって正に救いの神となりました。糖尿病患者の寿命や今でいうQOLは大幅に改善しました。その後、インスリン製剤は動物からヒトインスリンとなり、近年では皮下からの吸収時間などを変えて生理的なインスリン分泌の再現を可能とする、数々のインスリンアナログ製剤が出現し、インスリン治療の中心となっていることはご存じのとおりです。最近では、持続グルコース測定(CGM)を利用した持続皮下インスリン注入療法(CSII)も広く普及し、ついには低血糖を予測・感知してインスリン注入を中止するものまで日本で使えるようになります。インスリン製剤だけでなくインスリン投与のデバイスの方もこれから益々進歩していくと思います。

2型糖尿病治療で重要な役割を担っている経口血糖降下薬の方も現在7系統のお薬が存在します。これほど多くの「武器」を手にしてもまだまだ糖尿病治療には多くの問題が残されています。糖尿病とは本当に奥の深い疾患です。恵まれた状況にいる現代の我々は、今後どのように糖尿病を克服していくのか、改めて考えさせられます。



読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

**問題** シックデイの対応の説明として正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります。)

1. 高血糖時は水分の摂取を控える
2. 食欲低下時は、糖質の摂取を控える
3. インスリン自己注射は一時中止する
4. ビグアナイド (BG) 薬の内服は一時中止する
5. SGLT2阻害薬の内服は一時中止する



## 報告

## 第42回糖尿病連絡会

日時：平成30年1月25日(木)  
場所：スカイタワー西東京

1月25日木曜日、スカイタワー西東京(田無タワー)大会議室において、第42回糖尿病連絡会が開催されました。当日は医師・コメディカルを含め、22名の参加で盛況に終ることができました。

今回は「糖尿病と脂質管理の重要性」をテーマに、八木メディカルクリニック 八木 知佳先生に司会進行をして頂き、症例検討会として公



八木先生



大黒先生



倉林先生

立昭和病院 糖尿病・内分泌内科 副部長 大黒 晴美先生より、「血糖コントロール良好にもかかわらず、腎障害が進行した症例」を提示頂きました。公立昭和病院における検査の紹介や腎症進展抑制のためには血糖管理に加え、血圧・脂質管理が重要であることをご紹介頂き、活発なディスカッションとなりました。特別講演では、群馬大学大学院医学系研究科 循環器内科学 教授 倉林 正彦先生より、「ハイリスク糖尿病患者への積極的脂質低下療法の意義」についてご講演頂きました。昨年改定となった動脈硬化症診療GLを踏まえ、なぜLDLコレステロールを下げなければならないのか、その理由となる疫学や各薬剤のエビデンスに触れ、脂質管理の意義についてご紹介頂きました。ハイリスク糖尿病患者さんでは、LDLコレステロール管理目標値として70mg/dlを目指す必要があること、薬剤の使用選択についてご紹介頂くとともに、昨今発表となっているSGLT2のエビデンスにも触れ、その有用性についても分かり易くご講演頂きました。

## 報告

## 西東京CDEの会 第16回症例検討会

日時：平成30年2月1日(木)  
場所：国分寺労政会館

[当法人会員] 実行委員 多摩北部医療センター 町田 景子 [看護師]

今回の症例検討会は、昨年に引き続き「高齢糖尿病患者の在宅療養生活を考えよう～医療と介護のシームレスな連携を検討しようPart4～」と称し、退院後、認知症が進行し、療養生活が難しくなった症例をもとにグループワークを行いました。参加者の内訳は、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士と多職種連携が叫ばれている中、多くの職種が参加して頂き、ディスカッションは各グループに笑いも起こりながら白熱した内容となりました。

症例は、退院前カンファレンスを実施し、介護保険やサポート体制を構築して自宅退院しましたが、その後注射、食事拒否となり、介護サービス調整が必要となっている状況で、私たち医療者がどんな在宅での療養支援が工夫できるか？がポイントでした。

グループ発表では、各職種の強みが色濃く出た内容でした。例えば、管理栄養士からは食事拒否については分食や料理内容を彩りや匂い、家族へ料理教室に参加してもらうなどが挙がり、薬剤師からは、インスリン注射の種類変更、錠剤から飲みやすいシロップにするなど個別性に注視したものが多くありました。

最後に、どのグループも患者さんの気持ちやその家族への思いを大切にしていこうと考えていることが分かり、とても温かい気持ちになった症例検討会でした。また、地域包括支援センター相談員、調剤薬局の薬剤師の方々からも、在宅医療や介護の現状と取り組みをお話いただき、私たち医療者への活力となりました。





## 日本糖尿病医療学学会第1回関東地方会

平成30年2月11日(日)

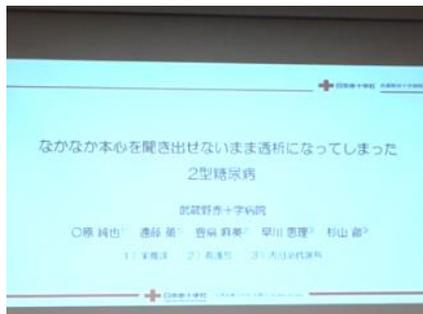
一橋大学一橋講堂

[当法人理事]

武蔵野赤十字病院

梶島 麻美 [看護師]

平成30年2月11日(日)に、一橋大学一橋講堂にて、日本糖尿病医療学学会の第1回関東地方会が開催されました。日本糖尿病医療学学会の特徴は、糖尿病療養に携わる医師やコメディカルのほか、臨床心理士のプロフェッショナルが多数関わっており、糖尿病を持つ患者の生活や、ころにある苦悩に添える資質やセンスを養う学習が多くできます。そして、糖尿病を持つその人自身が糖尿病を引き受けることに寄与するため「聴く力・続ける力・待つ力」とは何かを掘り下げることにあります。1演題の持ち時間は、20分・30分と2通りあり、演題ごとに発表者と聴衆がディスカッションを深めることが、他の医療・看護の学術集会には見られない光景かと思えます。その地方会としての今年のメインテーマは「糖尿病医療学 答えを探すより、意味を考える」でありました。



昨年10月に京都で行われた第4回の学術集会では、「医療学」とは、医学的成果(治療の情報とエビデンス=物)を患者がうまく利用できるように、医療者が仲介し手渡していく過程で、その過程における人と人との関わりは、人間的・社会的行為であるという考えが浸透しつつありました。その「学」を体系化するためには人間的な関わりの術(技-アート)に関する知識と理論が重要であることが大きな意味を持つことを再認識しました。特に「待つ」という姿勢の在りようを考えると、ただ「待つ」ということと、「持ちこたえながら待つ」という違いに対する理解が少し進んだように感じました。患者さんが「糖尿病を引き受ける」ようになる時間軸に希望を抱きながら、ともに歩む姿勢を持ちこたえる原動力を得たように思います。



もともと、当法人の共催事業でもある「西東京糖尿病心理と医療研究会(担当理事:朝比奈崇介先生)」は、医療学が提唱する考えに精通されている先生方が造ってくださった研修会で、21回を数える伝統あるものです。そのためか、今回の関東地方会には、全32演題のうち7演題が西東京地区からのものでありました。そのことをとても誇らしく感じました。本学術集会の後は清々しくなる思いをいつも感じられる学会です。皆さんも今年の10月は京都で深い学びを得てみませんか?

日本糖尿病医療学学会 公式ホームページ <http://jasdic.org>



読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 4, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. × 高血糖時は脱水によって高血糖が更に悪化しやすいので、積極的に水分(もちろん無糖)を摂取する。
2. × 控える必要はない。
3. × 1型糖尿病患者(のインスリン分泌枯渇例)では中止してはいけない。中止すると容易にケトアシドーシスになり危険である(もちろん、食事の摂取状況・自己血糖測定値による調節は考えられる)。それ以外のインスリン治療中の糖尿病患者でも原則として中止はせず、食事の摂取状況や自己血糖測定値を参考に必要であれば調節する。いずれに場合も自己調節が難しければ受診を指示する。
4. ○
5. ○

## 研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業

◆ 共催・後援事業

□ その他

## ◆ 薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会／第1回セミナー

申込必要

テーマ：『糖尿病発症予防のために』

開催日：平成30年6月1日（金）19:30～21:00

場所：国分寺労政会館 第一会議室（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分）

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（5/24締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費  
無料詳細資料の  
同封あり

## ◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第63回例会

申込不要

テーマ：『差し迫った糖尿病医連携』

開催日：平成30年6月16日（土）15:15～18:50

場所：国分寺市立いずみホール（JR「西国分寺駅」下車 徒歩2分）

参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL:042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

詳細資料の  
同封あり

## ◆ 平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

&lt;看護系&gt; 第15回 西東京教育看護研修会

&lt;栄養系&gt; 第15回 西東京病態栄養研修会

&lt;薬剤系&gt; 第15回 西東京薬剤研修会

&lt;臨床検査系&gt; 第3回 西東京臨床検査研修会

&lt;運動療法系&gt; 第3回 西東京運動療法研修会

&lt;フリーコース&gt; ※5/1(火)より申込開始

開催日：平成30年7月1日（日）9:25～16:55（開場9:10）

場所：北里大学・薬学部 白金キャンパス

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/8～4/30] 5,000円 / 通常[5/1～6/21] 6,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「平成30年度 西東京糖尿病療養指導プログラムの申込はこちらから」より

お申込みください。（6/21(木)締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は＜第1群＞の単位数は、研修会毎に異なります。また＜第1群＞と＜第2群＞の単位はどちらか一方のみ認められます。

詳細資料の  
同封あり

## ◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第14回研修会

申込必要

演題：『低血糖のリスク管理』

開催日：平成30年7月10日（火）19:20～21:00

場所：立川相互病院横 薬局棟2階・講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位申請中

参加費  
無料詳細資料の  
同封あり

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局

〒185-0012

国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802

TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478

https://www.cad-net.jp/

Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



学会で地方に観光がてら行くことが毎年の楽しみの一つですが、今年の糖尿病学会は東京なので個人的にはやや残念です。ただ、普段行けなくても東京なら参加できるという方もたくさんいらっしゃるでしょうから、東京開催のメリットもありますね。職場と会場を行ったり来たりする方もいらっしゃるのでしょうか…。皆様にとって有意義な学会になりますように。

(広報委員 杉山 徹)